

2021年8月24日

東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2021

企画開発会議調査部会 第2回ヒアリング資料

(山形県) 九里学園高等学校

## 九里学園高等学校における外国人生徒等の教育

### ①生徒の実態

現在、在籍している生徒は中国人3名（3年女子2名、1年男子1名）

#### ・日本語能力 学力

入学した時点で、来日2年経過している生徒と、来日すぐの生徒で、日本語能力は様々。過去に在籍していた中国人生徒も同様。基本的には、日本語能力試験のN3～N2取得を目標とする。日本の大学に進学を希望する場合、N1取得を目指す。

#### ・生活・学習上の困難

ほとんどが、該当生徒の在籍するクラス担任と学年、教科担当者間で情報を共有される。家庭環境や、事情が特殊な場合もあるため、なかなか学習や学校生活そのものが進まないこともあり、その際には、担当教員間で情報を共有し、サポート体制を強化する。保護者が日本語を十分に理解できない場合も多いので、担任の他に、中国語を話せる教員のサポートが必要。また、留学目的で寮生活やアパート生活をしてきた生徒も過去にあり、その際の生活面でのサポートも課題。

#### ・進路

経済的な問題を抱えている生徒もおり、就職を希望する生徒の場合、進路課が企業とのマッチングをいかに行うか、ということが課題。日本での十分なコミュニケーションができることが必須条件になるので、在学中の日本語学習が非常に大切になる。

### ②日本語指導・教科学習支援

#### ・教育課程上の位置付け、校内の受け入れ体制

生徒が履修している授業の中で、最低週4時間、日本語の授業を確保している。

その年度の時間割や、生徒の進路に影響のないよう、授業をとりだして、別室で日本語の授業を行っている。例えば、月曜日2時間目「数学A」／水曜日4時間目「生物基礎」／木曜日1時間目「コミュニケーション英語I」／金曜日5時間目「家庭基礎」

日本語の授業は開講していない。あくまで個別指導。

#### ・指導・支援内容

中国語の話せる国語科の非常勤講師が担当している。国語の授業も担当しているので、その年度の時間割の中で、担当教員が入れる授業を、生徒の進路に必要な授業と重ならないように取り出している。その他、生徒本人が日本語があまり堪能でなければ、担任との間に入って生徒に面談したり、三者面談の際も同席したりする場合がある。

個別の事情や能力が違いすぎるので、具体的な検定試験を目標としてステップアップを図っている。テキストは、市販の日本語能力試験対策本（級別）を使用し、絶版になることもあるので、何年かに一度別のものに変更している。

※過去に、英語圏の外国人生徒が在籍していたときは、市の国際交流協会のご紹介で、英語のできる方に、同じような体制で日本語指導をお願いしたこともある。

#### ③進路支援 進学指導・就職支援・キャリア教育

日本人と同じ条件で、進路指導を行っている。

#### ④多文化共生に関わり教育や、心的サポート・生活相談

令和元年度から本校は、文科省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型」に指定をうけている。その一環として「多文化共生」をテーマに探究学習をおこなっており、現在在籍している中国籍の生徒に、日常での困りごとや文化の違いなど直接インタビューしたり、企業で研修生として来日している東南アジアの従業員の方に防災対策のワークショップを市の防災課と連携し実施したりもした。探究学習を行っている生徒たちにとって、多文化共生は当然の考え方となりつつある。また、本校は以前 2015 年から S G H A（スーパーグローバルハイスクールアソシエイト）校としても指定を受けており、地元国立大学の留学生と一泊二日でワークショップを通して交流を行うグローバルキャンプや、短期、長期留学生の受け入れを積極的に行ってきた。過去には、インド人学生 50 人の短期受け入れ（ホームステイ含む）や海外の提携校からの留学生受け入れも行ってきたので、校内での異文化理解、多文化共生のイメージは身近にある。

校内では、不登校生徒や学習障がい、グレーゾーン等支援の必要な生徒を対象に、別室学習を進める教室がある。担当の教員も常時在中しており、必要な生徒にはソーシャルスキルトレーニングも行っている相談室という部屋がある。現在在籍している 3 年生女子中国籍の生徒 2 名は、もともと言葉の壁でクラスになじめないところがあり、コロナの影響もあって完全に教室に入れなくなってしまった。そこで、生徒たちの学習や学校生活をこの相談室でサポートし、現在就職するための指導も受けている。

#### ⑤地域の団体・大学・企業との連携による取り組み

④で挙げた、山形大学工学部国際交流センターのご協力により、グローバルキャンプや、探究学習の一環として多文化共生ワークショップに留学生を派遣してもらっている。